

※一部非公開

令和三年度入学試験問題（前期日程）

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者は、一、二について解答しなさい。

中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者は、一、二、三、四について解答しなさい。

注意事項

- 一、解答時間は、小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者については八〇分、中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者については一〇〇分である。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 四、解答は縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

一

次の文章は、多和田葉子「地球にちりばめられて」の第二章「Hirukkoは語る」から抜粋したものである。この小説は、留学中あと二ヶ月で帰国という時に、自分の国が消えてしまったために移民になったHirukkoを主人公とする。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

(多和田葉子、『地球にちりばめられて』、二〇一八年、講談社、三三三〜四一ページ、一部改変)

注

1 ムーミン——フィンランドの作家トーベ・ヤンソンの「ムーミン・シリーズ」と呼ばれる一連の小説や絵本などの総称。

2 メタモルポーセス——原義は「変身」という意味のラテン語。

3 ドルテ——問題文の前の場面で登場する同僚の名前。

4 マジパンチョココレート——マジパンとは、アーモンド粉末と砂糖を練り合わせた餡あんのような食感を持つお菓子のこと。ヨーロッパではなじみ深い。そのマジパンにチョココレートをコーティングしたのが、マジパンチョココレートである。

5 ピジン——異言語間の意思疎通のために自然に作られた混濁言語のこと。

問一 傍線部 a～e の漢字の読み方をかきなさい。

- a 憂(い) b 脳裏 c 密(かに) d 杭 e 諺

問二 傍線部①「ばけくらべ」は、昔話を再話した作品であり、日本の小学校国語教科書にも掲載されている。同じ作家の他の作品を二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「モチモチの木」 イ 「雪わたり」 ウ 「龍の子太郎」
エ 「なめとこ山の熊」 オ 「二人のイーダ」 カ 「八郎」
キ 「ごんぎつね」 ク 「夕鶴」 ケ 「ヒロシマの歌」

問三 傍線部②・③では、日本の昔話「ばけくらべ」を移民の子どもたちに紹介するにあたって、迷った末に「メタモルポーセス」や「マジパンチョコレート」という言葉を用いて翻訳することにした旨が述べられている。この二つの翻訳にこめられた「わたし」の意図や考えについて、それぞれ説明しなさい。

問四 傍線部④「最近になって、現地の人ではなくて、大人の移民が子どもたちの移民に接する方が効果があり、しかも必ずしもA国出身の大人がA国出身の子どもに接するのではなく、いろいろな文化が混ざった方がいいことが判明し」とある。なぜ、移民の子どもたちにメルヘンを通してヨーロッパを知ってもらうために、現地の人ではなく大人の移民が接する方が効果があるのか。その理由について、説明しなさい。

問五 傍線部⑤「パンスカ」について、直喩を用いて説明されている箇所を抜き出し、その表現の効果について解説しなさい。

問六 傍線部⑥「それなのになぜ、不法滞在する人間が毎年増えていくのだろう。このまま行くと、そのうち、人類全体が不法滞在していることになってしまう」にこめられた「わたし」の思いや考えについて、説明しなさい。

非公開

二 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

（渡辺靖、『文化』を捉え直す―カルチュラル・セキュリティの発想』、二〇一五年、岩波書店、一九―三二ページ、抜粋・一部改変）

注 1 ロングテール——販売機会の少ない商品でも多種多様な商品を取り揃えることで総体としての売り上げを大きくする、インターネットを用いた物品販売の手法のこと。

2 左公鶏——揚げ鶏のピリ辛炒めのこと。

3 芝麻鶏——鶏肉に甘い味付けをして焼いたものに胡麻を和えたものこと。

問一 波線部 a～e のことばを漢字で書きなさい。

- a コウデイ b クシ c イソウ d コシツ e カツキヨウ

問二 空欄 A に入る言葉を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 対極 イ 具体 ウ 象徴 エ 反例

問三 傍線部①「世界が一つの言語の世界観に収斂されることは、短期的には利便性や効率性に優れているように見えるが、長期的には——生物多様性をめぐる問題同様——均質性ゆえの脆弱さとリスクを伴う」とはどういうことか説明しなさい。

問四 傍線部②「グローバルに考え、ローカルに行動せよ(Think globally, act locally)」とは有名なフレーズだが、それは必要条件であっても十分条件ではないのはなぜか、説明しなさい。

問五 傍線部③「グローバリゼーションを巧みに『飼いならす(domesticate)』」とでグローカリゼーションに——少なくとも現時点では——成功しているように見受けられる事例」として、「琉球國祭り太鼓」を取り上げている。この事例がどのような点で「グローバリゼーションを巧みに飼いならすしている」のか、否定派の言説を踏まえながら説明しなさい。

次の古文は、兼好法師にまつわる話を虚実まじえて語った『兼好諸国物語』の一節である。読んで、あとの問いに答えなさい。(二五点)

非公開

(千本英史責任編集『日本古典偽書叢刊 第二巻』、二〇〇四年、現代思潮新社、一三八～一三九ページ、一部改変)

注 1 今日はいかに暮れがてにせん——今日は、さて、この暮らしにくい時間をどのように過ごそうか。

2 及べり——「及べる」とあるべきところだが、文法的に破格になっている。

3 童(わらは)——貴人などに仕える少年。

4 今川了俊——兼好と同時代の武将・歌人。

5 藻塩草——文章。

問一 傍線部の動詞①「ながむれ」・④「来」について、それぞれ活用の種類と活用形を答えなさい。

問二 傍線部②の内容として適切なものを、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あの世(天国)では、兼好法師の『徒然草』の存在を知っている人はいなかった。
- イ 海に向こうの国では、兼好法師が書いた文章を読み解ける人はいなかった。
- ウ 兼好法師が生きていた頃には、彼が書く文章の価値がわかる人はいなかった。
- エ 世情が安定していた時代には、兼好法師の『徒然草』は見向きもされなかった。

問三 傍線部③を現代語訳しなさい。

問四 太線部 a「てよ」・ b「る」・ c「に」の文法的意味として最も適切なものを、それぞれア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 打消
- イ 断定
- ウ 可能
- エ 存続
- オ 完了
- カ 意志

問五 空欄 A・B にはそれぞれ、空欄の直前に出てくる人物としばしば対比される人物の名が入る。それぞれ漢字で書きなさい。

問六 空欄 C に入る語句を、平仮名九文字で書きなさい。

問七 この文章で説明されている『徒然草』の成立の経緯を、八〇字程度で説明しなさい。

四

次の漢文は、琉球各地に伝わる民話や伝承を集めて漢文で綴った『遺老説伝』の一節である。読んで、あとの問いに答えなさい。(一五点)

非公開

(嘉手納宗徳編訳、『沖縄文化史料集成6 球陽外巻 遺老説伝』、一九七八年、角川書店、四四〜四五ページ、旧漢字を新漢字に改めるなど一部改変)

注 1 邑——「村」に同じ。 2 安嘉之子——「アカノコウ」または「アカヌシー」。人名。

3 敢——ここでは送り仮名を省略している。

問一 二つの空欄 には「より」と読む同じ漢字が入る。その漢字一字を答えなさい。

問二 傍線部①「要借家投宿」は「家を借りて投宿を要す」と読み下すことを踏まえて、解答欄の白文に返り点を付けなさい。

問三 傍線部②「敢」・④「若」の送り仮名も含めた読み方を、現代仮名遣いで答えなさい。

問四 傍線部③「必令群鳥尽食之」を漢字仮名交じりの書き下し文にしなさい。また、「之」が指す内容を明示しつつ、現代語訳しなさい。（なお「群鳥」は熟語として扱う。）

問五 本文の内容と合致するものを、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 安嘉之子が子・丑の日に播いた稲種を鳥に食わせると豊作になることを家主に伝授し、浦添郡ではその効果が大いにあった。
- イ 家の主が安嘉之子に宿を貸さず怒りを買って以来、浦添郡では子・丑の日に稲種を播いても鳥に食われてしまうようになった。
- ウ 稲作の指導をするために遠来した安嘉之子を家主が冷遇したため、浦添郡では収穫した稲が鳥に食われてしまうようになった。
- エ 子・丑の日が稲の種付けの吉日だという安嘉之子の占いを仲間村では無視したため、播いた稲種が鳥に食われてしまった。

【解答例】

受験番号

問一	うれ(い)【1点】	b のうり【1点】	c ひそ(かに)【1点】	d くい【1点】	e ことわざ【1点】
問二	ウ【2点】	オ【2点】			
問三	<p>「メタモルポーセス」については、母語ではないためにきめこまやかな語彙習得の余裕がない移民の子どもたちにとって、いろいろ場面で応用の利く根源的で多義的な単語を押さえておいた方がよいと考えたから。【3点】</p> <p>「マジパンチョコレート」については、故郷のお菓子の名前より、今住んでいてこれからも住みつづけるであろうお菓子の名前に慣れておいたほうがよいと考えたから。【3点】</p> <p>一つの文化しか知らないで生きる人たちと比べ、移民の大人たちは、異文化と出会った際にとまどったり、異文化理解のためにどのような手立てや支援が必要かを実感する数多くの体験を積み重ねている。そのため、異なる文化的背景の子どもたちの立場に寄り添いながら、どう伝えたらよいか、さまざまな工夫をこらすことができるため。【5点】</p>				
問四	<p>(通り過ぎる風景がすべて混ざり合った) 風のような言葉</p> <p>「風」という直喩は、一つの土地に根を張って生成発展していく言葉ではなく、国境を越えて自在に移動し続ける人びとによって、通り過ぎる土地土地の言葉が混ざり合いながらしだいに形成されていく言葉のありようを印象づける効果がある。【5点】</p>				
問五	<p>本来、地球上の土地は、空気と同じく、誰かの所有物ではなく、地球上に生まれた命はどこに住んでもいいはずだ。だが、国境ができ、正当な手続きを経ないで住む人びとは「不法滞在」とみなされることになり、グローバル化時代を背景に「不法滞在」への取り締まりをますます厳しくする傾向も見られる。一方で、世界の「格差と貧困」をめぐる諸問題は広がり深刻さを増し、こうした背景のもとにこれからも移民は増大するであろう。すなわち「不法滞在」者が増えることとなる。このような矛盾へのやりきれない思いと批評をこめている。【5点】</p>				
問六	<p>同上</p>				

問一	a 拘泥【1点】	b 駆使【1点】	c 位相【1点】	d 固執【1点】	e 活況【1点】
問二	ウ【2点】				
問三	<p>一つの言語の世界観にまとめることで、一見するとより遠くのより多くの人たちとコミュニケーションをとるうえでは優れているが、言語の皮相的な部分のみしか捉えておらず、結果として長い歳月をかけて培われてきた多様な知識や価値観を蔑ろにしたり、その多様性を排除してしまったりする可能性があるということ。【6点】</p>				
問四	<p>グローバル、あるいはローカルというように一つの層のみに専心して考えることにはならないが、グローバルからローカルへという単方向的に規定してゆくことにつながり、十分に重層的な位相を踏まえて文化について考えることにはならないから。【7点】</p>				
問五	<p>「琉球國祭り太鼓」は、国内外のネットワークを活用してエイサー文化を「外の世界」に広めている。確かに、先祖供養から楽しむことへ目的を変更し、地縁に拘らず、積極的に曲目や振付や小道具を変更し、女性の幅広い参加を認めるなど、「文化の破壊」と捉えかねない面もある。しかし、エイサー文化をグローバルに広めていくなかで、自分たちと「外の世界」が相互に関心を持ちあい、若者たちが沖縄の伝統文化に初めて関心を抱くようになるなど、グローバルとローカルを循環し混淆するきっかけとしてグローバルイゼーションを取り入れている点。【10点】</p>				

問一	① マ行下二段 活用 已然形 [2点]	④ カ行変格 活用 連用形 [2点]
問二	ウ [2点]	
問三	記述したものはあるか [2点]	
問四	a オ [2点]	b エ [2点]
	c イ [2点]	
問五	A 莊子 [2点]	B 紫式部 [2点]
問六	つれづれなるままに [2点]	
問七	<p>兼好に仕えていた命松丸が、兼好死後に仕えた今川了俊の命令で、兼好が庵の貼紙や経巻の裏に書き残した文章を集めてきて、それを二人で上下二巻の書物に仕立てた。</p> <p>[5点]</p>	

問一	自 2点	(従、由も可)	
問二	要二借レ家投宿一 2点		
問三	② あえて 2点	④ もし 2点	
問四	書き下し 必ず群鳥をして尽く之を食はしむ 3点	現代語訳 必ず鳥の群れに(命じて)すべての稲種を食へさせる 2点	
問五	イ 2点		